

▶慶長遣欧使節とは？

今から400年以上も前の1613年、仙台藩の殿様伊達政宗が、メキシコと直接の貿易をしたり、仙台にキリスト教の宣教師を呼んだりするために、スペイン国王やローマ教皇にお願いすることになりました。そのために送られた外交使節が慶長遣欧使節です。

使節の大使に選ばれた政宗の家臣、支倉常長は、宣教師のルイス・ソテロと一緒に、仙台藩で作られた洋式の帆船サン・ファン・パウティスタ号に乗って太平洋を渡りました。

▶支倉常長ってどんな人？

支倉常長は、伊達政宗に仕えた武士です。一度、父が罪を犯してしまい、その影響で常長も仙台藩を追い出されてしまいました。しかし、常長の才能を高く評価していた政宗は、もう一度チャンスを与え、大切な任務である使節の大使に選んだといわれています。



サン・ファン
クイズ①

Q.サン・ファン・パウティスタ号がメキシコへ出発したころ、世界は「大航海時代」と呼ばれる時代でした。そのころ、世界の海は2つの国が分け合っていました。その2つの国とはどこでしょう？

- ①スペインとポルトガル ②イギリスとアメリカ ③フランスとドイツ



▶ 「サン・ファン・パウティスタ」ってどんな船？

江戸時代のはじめに石巻からメキシコへ向かった、木造の洋式帆船（ガレオン船）です。乗っていたのは、支倉常長を大使とする慶長遣欧使節や南蛮人（外国人）、商人などの人々でした。

伊達政宗は、スペイン人の探検家ビスカイノと、幕府の船の責任者（船手奉行）である向井将監の協力を受けてこの船を造りました。

船づくりに必要な木材は、すべて仙台藩の土地（仙台領内）から集められました。現在の岩手県の南部や宮城県の北部などから、大量の松や杉が切り出されました。

そして、それらを陸や海を使って運び、船を組み立てたのです。

◀サン・ファン館に展示中の復元船「サン・ファン・パウティスタ」号（1／4スケール）

サン・ファン クイズ②

Q.サン・ファン・パウティスタ号には多くの人々が乗り込み、一緒にメキシコを目指しました。
どのくらい人数だったのでしょうか？

- ①約30人 ②約90人 ③約180人

▶どこに行き、何をしたの？

1613年10月28日、支倉常長たち一行は石巻の月浦から出発し、遠いイタリアのローマを目指しました。

船は約90日間の長い旅をして、まずスペインの領地だったメキシコのアカプルコに着きました。そして、スペインの船でメキシコを出発し、大西洋を渡りました。途中、キューバのハバナにも立ち寄りしました。

スペインの首都マドリッドでは、国王フェリペ3世に会い、政宗からの手紙（親書）を渡しました。常長は国王が見守る中、キリスト教の洗礼を受け、キリスト教徒となります。

その後、ローマ教皇パウロ5世に会うためイタリアへ向かいました。ローマの街に入ると、支倉常長たちを歓迎するパレードが行われました。



サン・ファン

クイズ③

Q.長い旅をしてヨーロッパへ向かった慶長遣欧使節。その最大の目的は、いったい何だったのでしょうか？

- ①外国と貿易をすること ②日本の文化を広めること ③金や銀を手に入れること

▶ ミッションは成功したの？

常長はローマ市民の権利を与えられ、さらにローマ貴族にもなりました。そして、ローマ教皇にも会うことができました。

教皇は、日本に宣教師を送ることに賛成しましたが、貿易についてはスペイン国王が決めるべきだと伝えました。そこで、常長はスペインに戻って繰り返しお願いを続けましたが、当時、日本ではキリスト教を禁止する流れ（禁教令）があり、交渉はうまく進みませんでした。

メキシコに戻った常長は、迎えに来たサン・ファン・バウティスタ号に乗り、フィリピンのマニラへ向かいました。そして、貿易を実現するため、船をスペインへ売る決断をしました。

常長は、粘り強く交渉を続けましたが、はっきりした返事がもらえないまま、ついに日本へ帰ることになりました。マニラから別の船に乗って長崎へと向かい、仙台に帰ってきたのは1620年9月22日で、出発から約7年もたっていました。

その後、常長は病気になり、帰国から1年後の1621年に亡くなったといわれています。

結果として、使節の交渉は成功しませんでした。しかし、日本の国力の強さや、海外と交流する意識をヨーロッパの人々に印象づけることができた、日本の歴史に残るできごとでした。

日本史と世界史が交わった大航海時代。

支倉常長ら慶長遣欧使節の旅や、政宗が世界とつながろうとした考え方にふれて、

あなたはどんな気持ちになりましたか？みんなで話し合いながら、歴史について考えてみましょう。